

## 一般社団法人日本人間工学会第55回理事会 議事録

1.開催日:2021年3月2日(火) 17:00~19:20

2.開催場所:Zoomによる遠隔会議

3.出席理事:<敬称略>

・理事会構成員(27名・定足数14名以上)

(理事):吉武良治(理事長),下村義弘(副理事長,国際誌),青木洋貴(学術),石橋基範(総務),榎原毅(編集,国際誌),笠松慶子(財務),加藤麻樹(若手支援),辛島光彦(財務),狩川大輔(安全),鴻巣努(表彰),小谷賢太郎(国際協力),三林洋介(戦略ロードマップ),佃五月(企業活動),中川千鶴(総務),中本和宏(戦略ロードマップ),松岡敏生(広報),山田クリス孝介(広報),横山清子(学術) [18名]

(理事兼支部長):内野英治(中国・四国),久保博子(関西),斎藤真(東海),平沢尚毅(北海道),本多薫(東北),村木里志(九州・沖縄,編集,国際誌),矢口博之(関東) [7名]  
[計:25名]

(欠席者):易強(企業活動),境薫(若手支援),

・監事:青木和夫,大須賀美恵子(第62回大会長)

・オブザーバー:佐藤洋(JENC),堀江良典(表彰),八木佳子(認定機構)

・事務局:西原彩,米倉裕美

※全員ネット会議出席者

### 4.議事概要

定足数14名を超える25名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後,定款に従い理事長を議長として議事を進行した。

#### 【審議事項】

##### (1) 第1号議案 2021年功労賞について(表彰委員会)

堀江表彰委員長より,2021年の一般社団法人日本人間工学会功労賞について,同賞の選考及び授与規程の第2条(1)ならび(2)により候補者9名が挙げられ,承認された。なお,候補者の中にはすでに退会している方もおり,受賞を受けるかは本人の意向を確認する必要があるとの説明があった。

##### (2) 第2号議案 理事会企画シンポジウムについて(大須賀美恵子大会長)

大須賀大会長より第62回大会時に開催する理事会企画シンポジウムについての紹介があった。オーガナイザーは榎原理事,話題提供は5件との説明があった。なお,企画提供者の一部の了解はこれからで,一件は担当者が未定とのことであった。理事会企画として承認された。

##### (3) 第3号議案 投稿規程の改訂について(編集委員会)

村木副編集委員長より投稿規程の改訂内容について説明があった。石橋理事より,別刷がなくなることで実質の値上げとなるかどうか質問があり,榎原編集委員長より,有償の別刷発注が必須ではなくなるにより実質的値下げになるとの説明があった。審議の結果,投稿規程の改訂について承認された。

##### (4) 第4号議案 査読者表彰制度新設について(編集委員会・表彰委員会)

堀江表彰委員長より新設する査読者表彰制度についてと表彰制度規程の変更箇所について説明があった。また,榎原編集委員長より,本制度設定の背景や受賞者選考規程案と選考内規案について説明があった。下村

副理事長から、学会からの表彰の種別や数について質問があり、堀江表彰委員長より回答があった。本件について審議の上、承認された。

#### (5) 第5号議案 HFE Educational Map の協力と日韓共同シンポジウムの開催について（国際協力委員会）

小谷国際協力委員長より、IEAのHFE Educational Mapの情報掲載にJESも協力することについて説明があった。ただし情報の信頼性はJESとして責任を持たないという懸念が示された。情報のアップデートについて審議され、山田広報委員長からもエルゴディレクトリも含め情報更新の重要性が指摘された。これを進めることについては承認されたが、吉武理事長より、今後、国際協力委員会と広報委員会と連携して、情報の収集の仕方やアップデートの頻度など方針を決めて次回理事会に挙げるよう提案があった。

また、小谷国際協力委員長より、日韓共同シンポジウムの開催について、例年のように大会と同時開催ではなく、次期をずらして2021年秋を目途にオンライン開催を企画することについて提案があった。第62回大会では、日韓共同シンポジウムは開催しないことについて、承認された。秋開催については、国際協力委員会の意向に沿って引き続き検討することとなった。

#### 【報告事項】

##### (1) 総務報告

(1-1) 石橋総務理事が、一般社団法人日本人間工学会第54回理事会議事録について報告した。

##### (1-2) 会勢報告(1月末)

2021年1月末現在、会員数1,366名(+29名)、賛助会員26社27口(-1口)。

##### (1-3) メールによる審議および報告事項等の結果について(1件)

第54回議事録案のメール審議の結果、承認されたとの報告があった。

##### (1-4) 全国大会における講演集の呼び名・位置づけについて

今回は報告なし。次回理事会にて具体的な内容を提示する。第62回大会は従来通りで準備を進める。

##### (2) 財務報告

辛島財務理事より、2021年1月度収支計算書(案)が提示され、会計状況の報告があった。

##### (3) 第62回大会(2021年)準備状況

大須賀大会長より、シンポジウム11件、演題は101件(現時点)の申し込み、会場は密を避けるよう計画中で、50人部屋4つ、100人部屋2つ、300人ホール1つ、一般も入れる1Fのギャラリーも抑えているとの準備状況報告があった。最小限の出費を心掛けているがハイブリッドによるそれぞれの経費がかかり、企業展示は人が集まらないため金額設定に配慮が必要、依頼する企業の情報提供をお願いしたいとのことだった。吉武理事長より、非常に困難であるハイブリッド開催への尽力について謝辞が述べられた。石橋理事より、総会の開催方式について今後詰める必要があるとのお願いがあった。

##### (4) 担当・委員会報告

###### (4-1) 広報委員会

山田委員長より、学会WEBサイトにて理事長メッセージを公開中との報告があった。今後はポジティブな発信を増やしたい旨、協力依頼があった。「ピックアップ人間工学家」は2件取材済み。グッドプラクティス(GPDB)は2件審査中。メディアより問い合わせがあり、CPEと連携。今後も適宜、各委員会等と連携して情報共有していきたいとのことであった。松岡広報副委員長より、グッドプラクティスやピックアップ人間工学家の紹介依頼があった。

###### (4-2) 編集委員会

榎原委員長より学会誌の発行状況等について報告があった。2021年は投稿本数が2か月で10篇あり、最近論文投稿が増えてきた印象がある。新しい査読制度の手ごたえを感じる。査読(1回目の査読結果)も平均1か月以内、原著論文以外は平均10日以内で返せている。過去5年間の投稿者125名にアンケートを実施し、主査・副査のコメントの質が論文投稿に影響していることがわかった。アンケート結果

はエディトリアルとして学会誌に掲載済み。

(4-3) 国際協力委員会

小谷委員長より、ARSO への IEA 協賛に対し理事長と相談の結果協賛許可を行ったこと、IEA Task Force へのアンケートに回答、IEA 評議会報告、ACED 評議会開催報告、国際協力委員会サイトの掲載情報の紹介があった。

(4-4) ISO/TC159 国内対策委員会

佐藤委員長より、令和3年度経産省標準化予算「インタラク션을成功させるための要件とプロセスに関する国際標準化」採択内示(170 万円程度)、令和 2 年度経産省標準化予算(採択済み)「Activity Based Working」は認定機構による事業として令和3年度から執行予定との報告があった。

(4-5) 表彰委員会

堀江委員長より、各表彰の準備を進めている旨報告があった。

(4-6) 安全工学委員会

狩川副委員長より、6 月 30 日~7 月 2 日開催の安全工学シンポジウム2021にてオーガナイズドセッションを開催すること、3 月 20 日に東北支部と共催のオンラインイベントを開催する旨報告があった。

(4-7) 学術担当

青木担当理事より、横幹連合の理事就任について報告があった。

(4-8) 人間工学専門家認定機構

八木機構長より、ISO プロジェクト(アクティビティワーキング)を機構で実施するため、会員にメール審議を実施し大多数の賛同を得て、2021 年の機構プロジェクトとして実施することになった旨報告があった。機構(CPE)の中から幅広く委員を募る予定。受託期間は3年。2年後に企画原案を提案予定。

例年実施している複数のイベント開催がコロナの影響できないため、オンラインでワークショップを実施予定。ぜひ参加をお願いしたいとの話があった。

(4-9) 若手支援委員会

加藤委員長より、集まらない状況でどうすればよいか、集まるという手段に依存しない若手サポートを考えていかなければと考えており、忌憚ない意見をいただきたいとの話があった。

(4-10) 企業活動推進委員会

佃副委員長より、今回は報告事項特になし、進捗としては話し合いの場を作る相談をしているとの報告があった。

(4-11) 人間工学戦略ロードマップ委員会

三林委員長より、今回は報告事項特になし、年頭の計画を実施すべく進めるとのことであった。

(4-12) 国際誌検討委員会

榎原委員長より、1 月にキックオフミーティングを開催し、情報共有を行ったとの報告があった。

(4-13) 子どもの ICT 活用委員会

吉武理事長より、柴田委員長のメディアや文科省での活動、デジタル教科書の連携などの報告があった。

(5) 支部報告

(5-1) 北海道支部

平沢支部長より、支部大会を11月28日にオンライン開催し、地域を超えての参加、学生の参加しやすさ、遠隔での人間工学教育のノウハウ共有の重要性、ビデオ配信による時間問題の解決など、発見が多かったとの報告があった。

(5-2) 東北支部

本多支部長より、例年3回実施する研究会を、今年度は2回開催、12月(山形中心)で実施、3月(宮城中心)に開催予定であるとの報告があった。

(5-3) 関東支部

矢口支部長より、12月12～13日に東京海洋大学で関東支部大会を実施、47演題の発表があった。3月24日に講演会を企画、Zoom開催なので他支部参加も可能との紹介があった。

(5-4) 東海支部

斎藤支部長より、10月31日に開催予定だった研究大会を1年延期するが、修了要件等で発表が必要な方のために10月31日にオンラインで発表会を開催し対応した。副支部長を2名とする方向で規約改定を予定との報告があった。

(5-5) 関西支部

久保支部長より、12月1日にオンライン見学会を実施、12月12日に支部大会実施との報告があった。3月27日に支部総会を実施、ビックデータ人間工学研究部会と共催の講演会も予定との報告があった。

(5-6) 中国・四国支部

内野支部長より、今年度は支部大会中止(本大会開催だったため)、代議員会はZoom開催済との報告があった。支部として、本大会への学生参加の援助を検討しており、役員会で審議予定との報告があった。

(5-7) 九州・沖縄支部

村木支部長より、12月20日に支部大会をオンラインで開催したとの報告があった。

(6) 協賛等の依頼

石橋総務理事より、合計16件の協賛依頼について報告された。

(7) その他

(7-1) 2021年定時社員総会資料作成に向けて

事務局より、3月上旬に依頼メールを発信するので、必要書類を期日(4月上旬～中旬)までに提出してほしいと連絡があった。

(7-2) 今後の理事会日程について

事務局より、次回第56回理事会を2021年4月下旬から5月上旬頃に開催予定で、日程については後日メールアンケートを実施する旨連絡があった。

(8) 閉会

以上の議事を終え、19時20分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、代表理事、監事がこれに記名押印する。

2021年3月2日

代表理事

吉武良治<sup>Ⓔ</sup>

監事

青木和夫<sup>Ⓔ</sup>

監事

大須賀美恵子<sup>Ⓔ</sup>